

公共事業事前評価調書(平成 26年度予算要望)

所管課: 都市計画・モノレール課 担当班: モノレール建設現場事務所

事業名	幸地インター線道路整備事業		事業区分	道路事業	事業主体	沖縄県			
事業箇所	西原町翁長～西原町幸地地内								
事業の諸元	延長L=約0.8km IC部構造:本線直結型(トランペット型)								
事業の概要	沖縄21世紀ビジョン及び沖縄県総合交通体系基本計画に基づき、ハシゴ道路ネットワークの構築及びモノレールと高速道路の結節を図るために行うものである。								
事業の必要性・効果等	(必要性等) モノレール第4駅と高速道路を結節することにより、中北部地域を含めた定時性の高い公共交通ネットワークが形成され、自動車交通から、公共交通への転換を促進し、那覇都市圏の交通渋滞緩和に寄与する必要がある。 (効果) インターチェンジを設置することにより、高速道路利用の向上が図られ、一般道から高速道路への転換を促すことで交通渋滞緩和に寄与する。また、ハシゴ道路の構築に資することで、国道58号等に集中する南北方向のアンバランスな交通需要の分散効果が期待される。								
事業期間	事業採択	平成 26年度		完了(予定)	平成 30年度				
全体事業費	50.8	(億円)	補助・単独の別	補助	補助率	9/10			
費用対効果	B/C	総便益:B	284.1	(億円)	総費用:C	70.8	(億円)	基準年	平成 25年度
	= 4.0	① 走行時間短縮 251.8 ② 走行経費減少 22.6 ③ 交通事故減少 9.7		① 事業費 55.5 ② 維持管理費 15.3 (①、②NEXCO分含む)					
事業着手の熟度・上位計画との整合性	当該道路は沖縄21世紀ビジョン基本計画で「人間優先のまちづくり」に位置づけられ、沖縄県総合交通体系基本計画において「多様な利用目的に応じた道路網の整備」としてハシゴ道路ネットワークの構築が位置付けされている。また、県土の近郊ある発展を支える利便性の高い陸上交通ネットワークの構築において、モノレールと高速道路結節が位置付けされている。								
環境への配慮	ランプについては極力、低未利用地を通過する様にして生活環境へ配慮するとともに、低騒音舗装を施工することにより沿道環境に配慮した整備を行う。								
関係する地方公共団体等の意見	浦添市、浦添市議会及び浦添市民総決起大会実行委員会からのモノレール延長要請があり、延長については、終点駅における沖縄自動車道との交通結節を前提としている。								
概要図(位置図)									